

「人権」について考える

いわき市立遠野中学校 3年 緑川 夏帆

みなさんは「人権」という言葉を聞いたことがありますか？私たちの社会にはこの「人権」という言葉がよく使われています。しかし、この言葉の意味を私たちは本当に理解しているのでしょうか。

「人権」とは、すべての人が持っている生まれながらの権利のことです。つまり、誰もが平等であり、自由であるべきだという考え方です。しかし日常生活の中で私たちはこの「人権」という権利を軽くみたり、見過ごしてしまったりしていることが多いのではないかと思います。

私の家族は兄弟が多くその分、何かを決めたりする時は様々な意見が飛びかいます。たとえば私が何か新しいことに挑戦してみたいと言ったとき、母は「失敗してもいいからなんでもやってみたら？」と背中を押してくれ父は「やるのはいいけど、ケガには気をつけて。」と心配をしてくれます。このように異なる意見が出て、それに兄弟も多い中、私はいつも自分の考えを尊重してもらい、たくさんの新しいことにチャレンジする機会をもらってきました。この経験を通じて私は自分だけでなく、他人の意見も尊重することの大切さを学ぶことができ、「人権」とは他人の意見や感情を尊重することから始まるんだなと考えるようになりました。私が家族の中で意見を尊重してもらい、好きなことをさせてもらっているのは私の権利が尊重されているからだと思いました。しかし、もしも誰かが私の意見を無視したり、抑え込んだりしたら、私は家族の中ですら自分の意見を言うのが怖くなってしまいます。このようなことが日常生活の中で起きてしまうと、私たちは誰もが平等であり自由であるべきだという考えの「人権」という大切なものを失ってしまうと思います。

それは日常生活だけでなく学校生活でも同じだと思います。学校生活で時々、友達との間で意見がぶつかってしまったり周りとは違う意見を言った人が仲間外れにされてしまったりすることがあります。そのような時は、自分を振り返り、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちも考えることが大切だと思います。私たちは誰もが意見を自由に言える環境で学んでいます。もしこの時、相手の意見を聞かずに自分の意見だけを押し通してしまったらその相手の権利が尊重されていないことになってしまいます。だから、このような時には何か一つの意見を正しいと決めつけるのではなく、数少ない意見も取り入れること、誰もが自由に自

分を表現できる環境を作ることが大切だと感じました。私自身、あまり自分の意見や考えをたくさんの人の前で言うのは得意ではないので、誰でも発言しやすい環境を作っていくことは、これから私のように、自分の意見を発するのが苦手な人たちにとってとても重要になってくると思います。

他にも「人権」というものは人と人との関わりがとても大切になってくると思います。私の住んでいる地域では年に一度、小さな盆おどりのようなものが行われます。この日は地域のたくさんの人たちが集まり、たくさんの出店も出て、お互いの交流を深めています。このような地域のイベントを通して、私は普段はあまり関わることのないお年寄りの方々や小さな子どもたちとの交流をすることができ、私はこのようなイベントに参加する度に地域の人々との絆が深まるのを感じます。私はこのお祭りの時にお話しした一人のおばあさんが、「年をとると若い人たちとの関わりが少なくなる。でも今日、若い人たちとたくさん話ができてとてもうれしかった。」と話していました。この言葉を聞いたとき、私は改めて人と人とのつながりは大切だと実感することができました。この経験を通じて私は、「人権」とは他人を思いやる心から生まれるものであると感じました。地域社会の中で、お互いを支え合って、尊重し合うことが豊かな社会を作る基盤になっていくと思いました。

このように私たちの生活の中で、家庭、日常生活、学校生活、そして地域社会はそれぞれ違った形で、「人権」を尊重する場面だと思います。どの場所、場面でも共通して言えるのは「人権」というものは、他人を尊重し思いやる気持ちが大切だということです。そしてこの「人権」というものが私たちの豊かな社会を築いていくために欠かせないものだと思います。更に、そのような日々の小さな行動が私たちの社会全体をより良いものにしていくのだと思います。私はこれからも自分だけでなく他人の人権を尊重し、自分自身もまた尊重されるような生活を心がけていきたいと思います。そして、周りの人たちと一緒にみんなが平等で幸せに暮らせる社会を作っていきたいです。